

# 自己評価書

(令和4年度)



あいさつ



しせい



くつをそろえる



そうじ

令和5年3月

鳴門教育大学附属特別支援学校

## I 学校の現況及び目的

### 1 現況

(1) 学校名 鳴門教育大学附属特別支援学校

(2) 所在地 徳島市上吉野町2丁目1

(3) 学級等の構成

小学部 3学級(複式)

中学部 3学級

高等部 3学級

(4) 児童生徒数及び教員数(令和3年5月1日)

小学部18人, 中学部18人, 高等部24人

児童生徒数60人

教員数30人(正規教員数)

### 2 目的

(1) 目的・使命

本校の目的は、附属特別支援学校校則第1条において「知的障害及び自閉症の児童生徒に対して、小学校、中学校及び高等学校に準ずる教育を施し、あわせて障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授ける」と定めるとともに、同条第2項では「幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の要請に応じて、幼児、児童又は生徒の教育に関し必要な助言又は援助を行うよう努める」と定めている。

また、校則第1条には「鳴門教育大学(以下「本学」という。)における児童及び生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており、具体的には国立教員養成大学の附属特別支援学校として、次のような使命をもった学校でもある。

- ① 大学と一体となって、特別支援教育の理論及び実践に関する科学研究を行う使命
- ② 大学の学部学生及び大学院生の教育実習及び教育実践研究等を行う使命
- ③ 地域において特別支援教育のセンター的機能を実践的に発揮するとともに、本県の教育の発展に寄与する使命

(2) 教育目標

本校は、校則第1条に示されている目的の達成のため、学校として、また各学部としてそれぞれ次のような教育目標を掲げている。

<学校教育目標>

児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、教職員が協働し、児童生徒一人一人の特性や発達段階に即し、将来を見据えて教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、他者を大切にしながら、健康で豊かな生活を送ることができるとような児童生徒を育成する。

<小学部>

- ① 豊かな心、じょうぶな身体を育てる。
- ② 日常の基本的な生活習慣を身に付ける。
- ③ 興味関心を広げ、自ら取り組む態度を育てる。
- ④ 人とかかわる基礎的な力を育て、集団での活動に参加できる態度を養う。

<中学部>

- ① こころとからだの調和のとれた人間力を育てる。
- ② 自他共に大切にできる態度を養う。
- ③ 生活に生かすことのできる知識や技能の向上を図る。
- ④ 個々の「参加」の質を高めて、生活を豊かにする態度を育てる。

<高等部>

- ① 心理的な安定を図るとともに、働くため健康な身体と青年期の豊かな心情を育てる。
- ② 主体的に働く意欲や態度、集中力を養う。
- ③ 将来の社会生活に必要な言語・数量に関する基礎的学力および生活技能を養う。
- ④ 人とかかわる中で社会性を身に付け、自ら生活を楽しむことができる力を養う。

### (3) めざす子ども像

本校では、学校及び各学部の教育目標に基づき、それぞれ次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

#### <学校全体>

- 明るく、仲よくできる子ども
- じょうぶで、元気な子ども
- よく働く子ども
- カいっぱいがんばる子ども

#### <小学部 めざす児童像>

- 心と身体健康向上に取り組むことができる児童
- 身の回りのことが、必要な支援を得てできる児童
- 学習活動に興味を持ち、主体的に取り組むことができる児童
- 人との関わりを大切に、集団活動に進んで参加することができる児童

#### <中学部 めざす生徒像>

- 健康な身体と調和のとれたところを持つ生徒
- 他者とかかわることを楽しめる生徒
- 学びや体験をとおして「分かる」「できる」「こうすればいい」ことを自分から見つけられる生徒
- 自らの興味や関心、楽しみを広げ、様々な生活場面に参加できる生徒

#### <高等部 めざす生徒像>

- 身体と心の健康に気をつけて、人や自然を愛することができる生徒
- 進んで働こうとする意欲やチャレンジ精神をもつことができる生徒
- 自分でできることは自分でして、できないところは支援を求めることができる生徒
- マナーやルールを守って積極的に社会参加をしようとする生徒

### 令和4年度の重点目標

#### ①学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた教育課程の編成、実施及び研究の推進

- ・ 個々の障がい特性や発達の状態を考慮した指導の個別化、学習の個性化、指導と評価の一体化により適切な指導と必要な支援を充実
- ・ 特別支援学校におけるSTEAMIC (STEAM教育 for inclusive and citizenship) 研究
- ・ ポジティブ行動支援 (あいさつ, よい姿勢, くつをそろえる, そうじ)

#### ②学校・家庭・地域や関係機関等との連携と社会に開かれた教育課程の実現

- ・ 切れ目ない支援とキャリア教育等の充実

#### ③特別支援教育のセンター的機能のさらなる充実

- ・ 地域のニーズに即した教育相談や研修等の機会や内容の充実
- ・ 地域や徳島県における特別支援教育への貢献

#### ④家庭や地域、関係機関等と連携した安全

- ・ 安心な教育環境の整備
- ・ 危機管理マニュアルの見直しや教室等学校施設の点検の徹底
- ・ 児童生徒が複雑な状況や変化に対応する力を育成する防災訓練の工夫

## 令和4年度の重点目標及び各学部各校務課の重点課題

鳴門教育大学附属特別支援学校

- 1 学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた教育課程の編成，実施及び研究の推進
- ・個々の障がい特性や発達の状態を考慮した指導の個別化，学習の個性化，指導と評価の一体化により適切な指導と必要な支援を充実
  - ・特別支援学校におけるSTEAMIC (STEAM教育for inclusive and citizenship) 研究
  - ・ポジティブ行動支援

### 〈小学部〉

- ①生活単元学習を中心に，学習活動で取り上げる単元や題材について，各教科等での関連性を確認しながら指導計画を作成し，実施する。
- ②実施した学習活動について，学部通信や本校ホームページ等で定期的に保護者に説明や紹介をする。

### 〈中学部〉

- ①個々の生徒の実態や生活に応じた「働く体験学習」を実施するとともに，保護者への進路に関する情報提供を実施する。
- ②ICT機器を活用した授業づくりを行い，生徒の情報活用能力を高めるとともに，教員の教育力向上を図る。

### 〈高等部〉

- ①学校研究テーマ「指導と評価の一体化」に沿った学部研究を教員共通理解の下で実施し，生徒の実態や青年期に応じた授業づくりをする。
- ②新しい生活様式に基づき，ICT機器を活用し，生徒の情報活用力を高めると共に，STEAMIC教育やポジティブ行動支援の視点を取り入れた教育活動を行う。

### 〈教務課〉

- ①個別の指導計画（主に評価）の記述内容の見直しを行い，円滑な作成と活用に向けた改善を行う。
- ②各教科（授業）等の年間指導計画の適切な評価と活用により授業改善に向けた取り組みを充実させる。

### 〈研究課〉

- ①学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程での『「主体的な学び」に向かう児童生徒の育成を目指した授業づくり』についての研究を推進する。
- ②児童生徒の障がい特性や発達の状態を考慮した個別最適な学習のための指導と評価の一体化において，指導方法（手立てや場面）を共有し，授業づくりや授業改善を行う。

## 2 学校・家庭・地域や関係機関等との連携と社会に開かれた教育課程の実現

- ・切れ目ない支援とキャリア教育等の充実

### 〈指導課〉

- ①人権尊重の視点に立った安心安全な学校行事を企画立案実施する。
- ②生徒心得を活用した細やかな生徒指導と，互いを尊重し合える人権教育の推進に，教職員が同一歩調で取り組む。

## 3 特別支援教育のセンター的機能のさらなる充実

- ・地域のニーズに即した教育相談や研修等の機会や内容の充実
- ・地域や徳島県における特別支援教育への貢献

### 〈発達支援センター・特別支援課〉

- ①校内の特別支援教育に関する体制整備及び教員の専門性の向上を図る。
- ②地域の多様なニーズに応える相談・支援機能の充実を図る。
- ③地域のニーズに応じた情報提供及び研修協力を行う。

## 4 家庭や地域，関係機関等と連携した安全・安心な教育環境の整備

- ・危機管理マニュアルの見直しや教室等学校施設の点検の徹底
- ・児童生徒が複雑な状況や変化に対応する力を育成する防災訓練の工夫

### 〈総務課〉

- ①安全管理点検表を作成し，校内108か所の安全点検を実施し，安全・安心な教育環境を整備する。
- ②GIGAスクール構想に基づき，学校・家庭でのICT機器活用のための環境整備を進めるとともに，1人1台端末のWi-Fi接続を含めた家庭への持ち帰り実施や学習課題の提供を行う。

## 令和4年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	小学部
昨年度の評価を踏まえた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な授業改善や効率的な協議の進め方についての検討</li> <li>・保護者に向けた学習状況や活動内容について周知方法等の検討</li> </ul>
今年度の重点目標 I	<p>学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた教育課程の編成，実施及び研究の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の障がい特性や発達の状態を考慮した指導の個別化，学習の個性化，指導と評価の一体化により適切な指導と必要な支援を充実</li> <li>・STEAMIC研究 ・ポジティブ行動支援</li> </ul>
各部・各課の重点課題	<p>①生活単元学習を中心に，学習活動で取り上げる単元や題材について，各教科等での関連性を確認しながら指導計画を作成し，実施する。</p> <p>②実施した学習活動について，学部通信や本校ホームページ等で定期的に保護者に説明や紹介をする。</p>

重点課題に対する具体的な評価指標	<p>①学部会等で指導計画の検討，評価，見直し等を年3回以上行う。</p> <p>②学部通信やホームページ等を月1回程度，配付や更新をする。</p>
実施計画 (手だて・スケジュール等)	<p>4～5月：実態把握，各教科等の指導計画の作成や検討</p> <p>4～8月：授業実践</p> <p>8月：中間評価と計画の見直し</p> <p>9～12月：授業実践</p> <p>1月：中間評価と計画の見直し</p> <p>1～3月：授業実践</p> <p>通年：月1回程度，学習活動を学部通信やホームページで紹介等を行う。</p>

実施状況	<p>①学部会や支援会議，学部研究会等で授業検討や支援の検討等を行った。各学級で取り組む学習活動（単元や指導計画）の目標や方向性，個別の支援等の確認等を確認することができた。また，STEAMIC研究についての研修を通して，小学部での生活単元学習が有効的な実践であること，教科横断的な学習となっていることを小学部教員で確認した。</p> <p>②小学部の学習活動の説明や紹介，行事案内等を保護者に配付した。後期からはTeams（小学部）に学部通信をアップして，各家庭のデジタルツールで閲覧できるようにした。また，学部懇談で小学部の学習活動の説明や紹介を行った。</p>			
評価指標の達成度及び成果	<p>①学習状況等の確認（中間評価，見直し等）を学部会等で定期的（年3回以上）に取り組んだ。</p> <p>②学部通信を月1回程度のペースで作成，配付するとともに，TeamsにPDF形式でアップした。タブレット等で閲覧できることで，保護者から「学習の様子（画像）が見やすくなった」，「学校祭のプログラムをスマートフォンで確認できた」等の感想が聞かれた。</p>			
総合評価 (記号を○で囲む)	(A)	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部会記録，学部研究会資料</li> <li>・学部懇談資料，学部通信，Teams更新内容，保護者からの感想</li> </ul>			
次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科等を合わせた指導についての理解を深め，実践を推進する。</li> <li>・個々の実態に応じて，より良い支援の検討や実践に取り組む。</li> </ul>			

スローガン：4つの大切 「あいさつ しせい くつをそろえる そうじ」

# 令和4年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	中学部			
昨年度の評価を踏まえた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学部段階に応じた進路指導及び保護者への進路に関する情報の提供</li> <li>・ ICT機器をより一層活用した授業づくり。</li> </ul>			
今年度の重点目標	学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた教育課程の編成、実施及び研究の推進			
各部・各課の重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>①個々の生徒の実態や生活に応じた「働く体験学習」を実施するとともに、保護者への進路に関する情報提供を実施する。</li> <li>②ICT機器を活用した授業づくりを行い、生徒の情報活用能力を高めるとともに、教員の教育力向上を図る。</li> </ul>			
重点課題に対する具体的な評価指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①-1 生徒個々の障がい特性や支援の方法を共通理解するための学部所属教員が全員参加した支援会議を年間2回以上、実施する。</li> <li>①-2 生徒の実態や生活に応じた「働く体験学習」を年間1回以上実施する。</li> <li>①-3 保護者に対して、学部懇談を通じた進路情報提供や「働く体験学習」の参観の機会を年間1回以上設ける。また、学部通信を月1回以上発行し、進路情報の提供を行う。</li> <li>②-1 ICT機器を活用した授業作りを各教科等で行う。</li> <li>②-2 夏季公開研修などICT教育に関する研修会に学部所属教員が年間1回以上参加する。</li> </ul>			
実施計画 (手だて・スケジュール等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①-1 通年の学部会、4・10月の支援会議において、各生徒情報や課題等を学部所属教員で共有し、共通理解のもと教育活動に取り組む。</li> <li>①-2 1月に「働く体験学習」を実施する。(1年生は1日、2・3年生は2日)</li> <li>①-3 6月の学部懇談で進路指導主事より進路情報の提供を実施する。1月の「働く体験学習」で保護者参観を実施する。学部通信を月1回以上発行する。</li> <li>②-1 学部会でICT機器活用に関する協議を行う。</li> <li>②-2 教員のICT教育に関する専門性を高めるため、外部専門家を活用する。</li> </ul>			
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>①-1 4月、8月の個人懇談で保護者から教育的ニーズを聞き取った。教育的ニーズを基に支援会議を実施し、生徒ができることや好きなこと、今後できるようになってほしいことなどについて共通理解を行った。毎回の学部会で各クラスから生徒の状況を報告してもらい、できていることや変化のあったことなどを共通理解することができた。</li> <li>①-2 1月に働く体験学習を実施した。17名の生徒が8か所の事業所において、作業体験を行うことができた。1名の生徒は事業所の都合により事業所での体験学習が実施できなかったが、職場見学や校内作業を実施した。</li> <li>①-3 7月の学部懇談では「高等部の進路指導」、12月の学部懇談では「働く体験学習」について話をし、保護者に対して進路情報や卒業後の生活について考える機会を提供した。1月の働く体験学習では15名の保護者が事業所での参観、反省会に参加し、作業の様子の見学や施設の概要等について情報提供を受けた。また、学部通信を月に1回以上発行することができ、学習状況や進路情報等を提供することができた。</li> <li>②-1 ICT機器活用について、学部総務課員を中心に協議を実施した。生徒の実態に応じた学習アプリの選定や、タブレット端末の使用法について共通理解することができ、機器の有効活用につなげることができた。</li> <li>②-2 夏季公開研修会では、静岡大学塩田真吾先生「特別支援教育における情報モラル教育の充実」についての講演を試聴した。SNSのルールやマナー等の必要性について学ぶことができた。また、GIGAスクール構想推進委員会に参加することを通して、ICT機器の活用方法等について学ぶことができた。</li> </ul>			
評価指標の達成度及び成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>①実施計画通りに実施することができた。生徒個々の実態や特性を把握した上で働く体験学習を実施することができ、保護者アンケートからも、すべての家庭から「将来の進路を考える上で参考になった」という意見をもらった。</li> <li>②全学部教員が担当する教科においてICT機器を授業内で活用することができた。研修会での学びを生かした取組も見られた。</li> </ul>			
総合評価 (記号を○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学部会議録、支援会議録、7月、12月保護者アンケート(授業参観・学部懇談)、働く体験学習保護者アンケート、中学部通信</li> <li>②学部会議録、学校評価保護者アンケート、学部教員からの聞き取り</li> </ul>			
次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎的環境整備や合理的配慮を踏まえた教育活動のさらなる充実。</li> <li>・ 小学部、高等部とのさらなる学部間連携。</li> </ul>			

スローガン：4つの大切 「あいさつ しせい くつをそろえる そうじ」

# 令和4年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	高等部			
昨年度の評価を踏まえた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態、希望に応じた進路指導を充実させる。</li> <li>・新しい生活様式に基づいた高等部段階の青年期の教育活動を充実させる。</li> <li>・HPの活用やGIGAスクール構想に基づくICT教育の取り組みの強化をする。</li> </ul>			
今年度の重点目標	学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた教育課程の編成、実施及び研究の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の障がい特性や発達の状態を考慮した指導の個別化、学習の個性化、指導と評価の一体化により適切な指導と必要な支援を充実</li> <li>・STEAMIC研究 ・ポジティブ行動支援</li> </ul>			
各部・各課の重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校研究テーマ「指導と評価の一体化」に沿った学部研究を教員共通理解の下で実施し、生徒の実態や青年期に応じた授業づくりをする。</li> <li>②新しい生活様式に基づき、ICT機器を活用し、生徒の情報活用力を高めると共に、STEAMIC教育やポジティブ行動支援の視点を取り入れた教育活動を行う。</li> </ul>			
重点課題に対する具体的な評価指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①-1 年度当初に、障がい特性把握のためのアセスメントを行う。支援の方法を検討したり、保護者のニーズを聞き取ったりするため個人懇談を年間2回以上、実施する。</li> <li>①-2 研究課からの情報を共有し、生徒の実態や保護者の願いにもとづいた授業づくりの学部研究会を年間5回以上実施する。</li> <li>②-1 ICT機器を活用した授業づくりを各教科等で行う。</li> <li>②-2 教員のSTEAMIC教育・ポジティブ行動支援に関する専門性を高めるため、情報を共有し、STEAMIC教育の視点を取り入れた授業実践を1回以上行う。</li> </ul>			
実施計画 (手だて・スケジュール等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①-1 5月にアセスメントを実施し、4月・8月・2月実施の個人懇談で保護者から教育的ニーズの聞き取りを行い、学部会やケース会議において教員間の情報共有を図る。</li> <li>①-2 学部研究会で、学部研究のスケジュール・目的・方法・課題などについて議論し、共通理解の下、授業改善・授業づくりに取り組む。</li> <li>②-1 学部会でICT機器活用に関する協議を行う。</li> <li>②-2 STEAMIC教育やポジティブ行動支援に関する研修や書籍等の情報を収集し共有する。また、STEAMIC教育の視点を取り入れた授業場면을記録する。</li> </ul>			
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>①-1 4月・8月の個人懇談で保護者から教育的ニーズを聞き取った。5月にアセスメントとして学部生徒全員に太田ステージ評価、また新入生にS-M社会能力検査を実施した。その結果を指導目標や支援の手立ての決定に生かした。</li> <li>①-2 学部会20回以上、学部研究会5回以上実施し、高等部教員で協議を重ね、授業改善・授業づくりに取り組んだ</li> <li>②-1 学部会でのICT機器活用に関する情報交換を行った。余暇でのICT機器の活用方法についても協議した。</li> <li>②-2 STEAMIC教育やポジティブ行動支援に関する研修や書籍等の情報を集め学部内で回覧し情報共有した。STEAMIC教育の試行場면을撮影し記録した。</li> </ul>			
評価指標の達成度及び成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>①実施計画通りに実施した。生徒の障がい特性や生活実態を保護者とともに的確に把握し、適切に支援し、実態と青年期に合わせた授業を実施することができた。</li> <li>②担当教科において、全学部教員がICT機器を活用した授業を行った。また、6つの授業において、STEAMIC教育の視点を取り入れた授業場면을記録した。</li> </ul>			
総合評価 (記号を○で囲む)	(A)	B	C	D
	80%以上	70~79%	50~69%	49%以下
評価根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学部会・学部研究会記録。個別の教育支援計画、個別の指導計画での学習評価。</li> <li>②授業記録写真及び学部教員からの聞き取り。</li> </ul>			
次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態を把握し、本人・保護者・教員と協議し、希望に応じた進路指導を充実させる。</li> <li>・生徒の実態に合わせた授業づくりを行い、高等部段階の青年期に応じた教育活動を実施することで、主体的に学ぶ生徒を育てる。</li> </ul>			

# 令和4年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	教務課			
昨年度の評価を踏まえた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別の指導計画の評価の記述内容について継続して協議を行う。</li> <li>・ 各教科(授業)等年間指導計画の評価と授業改善に向けた取り組みを行う。</li> </ul>			
今年度の重点目標	学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた教育課程の編成,実施及び研究を推進し,児童生徒の障がいの特性や発達の状態を考慮した適切な指導と必要な支援を充実し,PDCAサイクルに基づく授業改善や主体的な児童生徒の育成に努める。			
各部・各課の重点課題	①個別の指導計画(主に評価)の記述内容の見直しを行い,円滑な作成と活用に向けた改善を行う。 ②各教科(授業)等の年間指導計画の適切な評価と活用により授業改善に向けた取り組みを充実させる。			
重点課題に対する具体的な評価指標	①個別の指導計画の評価の記述内容等の検討を教務課会等で年間3回以上行う。 ②各教科(授業)等の年間指導計画の活用状況と授業改善について教員アンケートを実施し,課題を踏まえてPDCAサイクルに基づく年間指導計画の評価と活用について提案をまとめる。			
実施計画 (手だて・スケジュール等)	4～6月 ①②について教員アンケートを実施し課題をまとめる。 7月～11月 ①具体的な事例を挙げ,端的かつ児童生徒の学習状況や目標達成状況がわかる評価の記述内容や方法について教務課会で協議し提案をまとめる。 ②課題を踏まえ,年間指導計画の書式や評価,適切な教育課程の実施や授業改善につながる活用等について教務課会で協議する。 12月～3月 ①②について教育課程検討委員会での意見を踏まえ,再検討し改訂点をまとめ周知する。			
実施状況	①個別の指導計画の評価についての記述内容を教務主任会および教務課会で年間4回協議した。各学部教務主任を中心に,児童生徒の学習の様子や評価の根拠が伝わるわかりやすい記述の仕方を検討し,個別の指導計画作成マニュアルに例示した。また,次年度当初の全体研修時に全教員に周知する予定である。 ②教員アンケートを実施し年間指導計画の活用状況等について確認するとともに,本年度の各学部の年間指導計画を基に改善点を教務主任会および教務課会で協議した。また,授業改善につながる年間指導計画の活用について協議し,新学習指導要領に示された教科の目標・内容を踏まえた目標設定と評価について記入できる書式や中間評価の実施について検討した。			
評価指標の達成度及び成果	①個別の指導計画の評価の記述内容等の検討を教務課会等で年間3回以上行い,評価の根拠や学習状況の端的な記述について作成マニュアル(スライド版)に例示した。 ②各教科等の年間指導計画に関して教員アンケートを実施し,活用状況や見直しが必要な点について教務課会等で協議し,目標設定と評価および活用について書式のPDCAサイクルに基づく年間指導計画の作成と運用について改訂点をまとめた。			
総合評価 (記号を○で囲む)	(A)	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	①会議録 個別の指導計画作成マニュアル(評価および担当者所見の例示) ②会議録,教員アンケートおよび各学部聞きとりまとめ 各教科の年間指導計画の作成と運用について改訂点のまとめ(教育課程検討委員会資料 書式例等)			
次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学部教育課程の実施状況の確認,課題のまとめ</li> <li>・ 個別の指導計画の作成マニュアルの活用状況と改善について協議</li> <li>・ 各教科等年間指導計画の作成と運用について改訂点の実施状況と評価および改善に向けた取り組み</li> <li>・ 高等部段階における内容表の作成について(再検討)</li> </ul>			

スローガン：4つの大切 「あいさつ しせい くつをそろえる そうじ」



# 令和4年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	研究課			
昨年度の評価を踏まえた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新体制での研究の継続と深化。</li> <li>・研究紀要の作成と研究発表会の開催方法の検討。</li> </ul>			
今年度の重点目標	児童生徒の障がい特性や発達の状態を考慮した指導の個別化, 学習の個性化により適切な指導と必要な支援を充実し, 主体的・自立的な児童生徒の育成に努める。			
各部・各課の重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程での『「主体的な学び」に向かう児童生徒の育成を目指した授業づくり』についての研究を推進する。</li> <li>②児童生徒の障がい特性や発達の状態を考慮した個別最適な学習のための指導と評価の一体化において, 指導方法(手立てや場面)を共有し, 授業づくりや授業改善を行う。</li> </ul>			
重点課題に対する具体的な評価指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①授業づくり・授業改善について, 各学部の取り組みを確認するための学部研究会を4回以上実施する。</li> <li>②全体授業研究会を6回以上実施して協議を行い, 研究の方法に則した「主体的な学び」に向かう児童生徒の育成を目指した授業づくりが適切に行われているか等を見直し, 授業改善に繋げる。</li> </ul>			
実施計画 (手だて・スケジュール等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体研究会, 研究運営委員会, 企画運営委員会等を通して研究の進め方等について協議し, 共通理解を図っていく。</li> <li>4~6月: 研究目標に対する各学部の取組を確認するための学部研究会を実施する。</li> <li>6~11月: 各学部で, 研究目的に添った授業を実施する。 また, 各学部毎に2回の研究授業を行い, 全体授業研究会を実施する。</li> <li>8月: 全体研修(授業改善のアドバイス)をオンラインで開催する。</li> <li>11月~1月: 研究紀要の執筆を行う。実践した取組についての成果と課題をまとめる。</li> <li>1月: 研究発表会を開催し, 今年度の成果や課題等の発表を行う。研究紀要を発行する。</li> <li>2・3月: 2年間の成果と課題をまとめる。また, 次年度の公開授業へ研究を継続し, さらに課題改善に繋げる方向性を示す。</li> </ul>			
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部, 学部研究会を5回以上は実施することができた。</li> <li>・全体授業研究会を6回以上実施して協議を行い, 研究の方法に則した「主体的な学び」に向かう児童生徒の育成を目指した授業づくりの研究を進めることができた。</li> <li>・全体研修(8月, 12月)では, 植草学園大学の名古屋恒彦教授に授業動画を視聴していただき, リモートにより生活単元学習や「指導と評価の一体化」について御教授いただいた。</li> <li>・研究紀要を作成し, 発行することができた。</li> <li>・1月28日に県内限定かつ人数制限を設けた研究発表会を開催することができた。</li> <li>・2月10日より, オンデマンドにて研究発表会を配信する予定で準備を進めている。</li> </ul>			
評価指標の達成度及び成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部, 学部研究会を5回以上実施することができた。</li> <li>・全体授業研究会を6回以上実施して協議を行い, 研究の方法に則した「主体的な学び」に向かう児童生徒の育成を目指した授業づくりの研究を進めることができた。</li> <li>・研究主題である「知的障がい教育における指導と評価の一体化」を図ることができた。</li> </ul>			
総合評価 (記号を○で囲む)	(A)	B	C	D
	80%以上	70~79%	50~69%	49%以下
評価根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部, 具体的な評価指標を上回る学部研究会を行った。</li> <li>・6回にわたる研究授業・研究協議とともに, 本学の先生方の御指導・御助言のもと, 教職員全員で熱心に取り組むことができた。</li> </ul>			
次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究課会のスマート化(回数, 時間ともに短縮)</li> <li>・特支研の全国大会(徳島大会)で公開授業をする予定であったが, 公開授業がなくなったため, 今後の研究の進め方の検討が必要。</li> <li>・全国大会での作業学習の発表のバックアップをする。</li> <li>・全国大会の事務局である特別支援課に協力する。</li> </ul>			

スローガン: 4つの大切 「あいさつ しせい くつをそろえる そうじ」

# 令和4年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	指導課
昨年度の評価を踏まえた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍での安心安全な学校行事の計画・実施。</li> <li>・人権尊重の視点に立った合理的配慮への取り組み。</li> </ul>
今年度の重点目標 2	学校・家庭・地域や関係機関等との連携と社会に開かれた教育課程の実現 ・切れ目ない支援とキャリア教育等の充実
各部・各課の重点課題	①人権尊重の視点に立った安心安全な学校行事を企画立案実施する。 ②生徒心得を活用した細やかな生徒指導と、互いを尊重し合える人権教育の推進に、教職員が同一歩調で取り組む。

重点課題に対する具体的な評価指標	①学校行事の円滑な実施のため、感染症対策等に配慮した実施案を必要に応じて複数提案する。 ②-1 生徒心得の意義指導を生徒に対して年2回実施する。 ②-2 教育活動における合理的配慮とポジティブな行動支援について、学部会等の機会をとらえて研修及び共通理解できる機会をもつ。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	①-1 年間計画の作成と工夫改善（5・8・11・12月）。 ①-2 学校、家庭、地域との連携を意識した学校行事の実施（5・12月の運動会・学校祭）。 ②-1 生徒心得の意義指導の実施と見直し（9・12・2月）。 ②-2 教職員のポータルサイトによる生徒心得の意義指導に関する職員研修（7・8月）や、人権教育研修の実施（8月）。 ②-3 各行事等における合理的配慮とポジティブな行動支援の共通理解。

実施状況	①コロナ禍における感染症対策や、学校行事における画像や動画の取扱等の資料収集や情報収集を行った。また、養護教諭や杉の子会会長と感染症拡大防止対策会議を4回以上実施した（5月～12月）。 ②-1：生徒心得の意義指導を2回実施した（9月・1月）。 ②-1：生徒心得における一部の項目については、生徒指導主事や3学部主事と話し合いながら改訂を進めている。 ②-2：児童生徒指導における職員研修や人権教育研修を実施した（7月・8月）。 ②-3：各学部において、学部会やケース会議等で児童生徒への合理的配慮や指導・支援等について、協議し共通理解を行った（4月～2月）。
------	---

評価指標の達成度及び成果	・運動会・学校祭において、4種類以上の実施案を作成することができた。また、行事毎に、感染症対策や画像・動画の取扱等についての文書作成やメール配信を行い、安心安全な学校行事の開催に努めることができた。 ・生徒心得について、計画に沿って意義指導を実施すると共に、県内外の特別支援学校の校則について情報収集を行い、活用状況や見直しが必要な点について指導課会等で協議しながら運用することができた。 ・合理的配慮やポジティブな行動支援について、協議し共通理解を図ることで、教職員が同一歩調で児童生徒理解や指導・支援を行うことができた。
--------------	--

総合評価 (記号を○で囲む)	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 0 auto;">A</div>	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下

評価根拠	①, ②共に、評価指標の80%以上を達成した。 ・年間計画に沿った実施状況(回数)による。 ・保護者や教員による事後アンケート結果の肯定的評価。 ・会議録や各学部聞き取りのまとめによる。
------	--

次年度の課題	・生徒心得の改定。 ・感染症対策を緩和した中での学校行事の計画・実施 ・児童生徒会活動の活性化と人権教育の充実。
--------	--

# 令和4年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	発達支援センター・特別支援課			
昨年度の評価を踏まえた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校園の教育的ニーズに応えた効果的なセンター的機能について検討。</li> <li>・ 特別支援教育の専門性や資質の向上のための効果的な方法について検討。</li> </ul>			
今年度の重点目標3	特別支援教育のセンター的機能のさらなる充実			
各部・各課の重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 校内の特別支援教育に関する体制整備及び教員の専門性の向上を図る。</li> <li>② 地域の多様なニーズに応える相談・支援機能の充実を図る。</li> <li>③ 地域のニーズに応じた情報提供及び研修協力を行う。</li> </ul>			
重点課題に対する具体的な評価指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① - 1 個別の教育支援計画の書式の改訂に向け、年間スケジュールを作成し計画的に進める。</li> <li>① - 2 外部専門家（理学療法士・作業療法士）による児童生徒へのコンサルテーションを4回以上実施する。</li> <li>② 巡回相談員による訪問型及び来校型の教育相談や直接指導の地域支援を年間150回程度実施する。</li> <li>③ 特別支援教育や進路に関する研修を3回以上開催すると共に、学校園や関係機関などの求めに応じて研修会講師を複数回務める。</li> </ul>			
実施計画 (手だて・スケジュール等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① - 1 個別の教育支援計画の書式改訂の年間スケジュール 4月～10月：書式検討，10月：書式完成，11月～12月：マニュアル完成 令和5年4月：書式運用開始</li> <li>① - 2 外部専門家の校内来校・校外訪問予定 (校内来校) 6月・7月：2回 (校外訪問) 10月：2回 12月：2回 11月：2回</li> <li>②③各学校園及び徳島県立総合教育センター特別支援・相談課，徳島市教育研究所，徳島市子ども保育課などとの連携を密にし，地域の教育的ニーズの高い事例について相談支援を行う。</li> </ul>			
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>① - 1 年間スケジュールに沿って個別の教育支援計画の書式改訂を行った。</li> <li>① - 2 外部専門家（理学療法士・作業療法士）による児童生徒に対しての校内指導と校外指導合わせて8回実施した。</li> <li>② 巡回相談員による教育相談を187件（1月末）実施した。</li> <li>③ 特別支援教育等に関する研修を4回以上開催した。学校園や関係機関のニーズに応え，研修会講師を5回以上務めた。</li> </ul>			
評価指標の達成度及び成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 個別の教育支援計画書式作りのために，校務課会や企画で検討を重ねた。外部専門家を活用して取り組んだ成果を校内で報告したり，校外へホームページ等を使って広報したりできた。</li> <li>② 発達支援センターが所有する教材や書籍の貸出を行ったり電話や来校相談に応じたりした。</li> <li>③ 県立特別支援学校や県総合教育センターと連携し地域へ貢献した。</li> </ul>			
総合評価 (記号を○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 会議録（特別支援課や企画運営委員会）</li> <li>個別の教育支援計画の新書式。外部専門家活用についてのアンケート。</li> <li>② 教育相談実施状況，教育相談先へのアンケート。</li> <li>③ 教育機関からの派遣依頼文書や研修会アンケート</li> </ul>			
次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の学校園の教育的ニーズに応えた専門性の積極的な校外発信を行う。</li> <li>・ WISC-Vの活用に向けて研修会の参加。校内の専門性の向上や充実を図る。</li> </ul>			

スローガン：4つの大切 「あいさつ しせい くつをそろえる そうじ」

# 令和4年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	総務課			
昨年度の評価を踏まえた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全管理計画の改善, 安全管理点検の継続実施</li> <li>・タブレット端末の各家庭でのWi-Fi接続下での活用</li> <li>・保護者との連絡ツールの充実や文書のデジタル化</li> </ul>			
今年度の重点目標 4	危機管理マニュアルの見直しや教室等学校施設の点検整備の推進, 充実を図り, 家庭や地域, 関係機関等と連携した安全・安心な教育環境を整備するとともに, 児童生徒が様々な変化に向き合い, 複雑な状況変化の中で他者と協働して課題を解決したり, 目的を再構築したりしようとする態度を育成する。			
各部・各課の重点課題	①安全管理点検表を作成し, 校内108か所の安全点検を実施し, 安全・安心な教育環境を整備する。 ②GIGAスクール構想に基づき, 学校・家庭での ICT機器活用のための環境整備を進めるとともに, 1人1台端末のWi-Fi接続を含めた家庭への持ち帰り実施や学習課題の提供を行う。			
重点課題に対する具体的な評価指標	①-1:安全管理点検日を設定, 点検表を作成し, 点検方法についての周知を行い, 複数教員で決められた場所について点検表の項目に基づき, 安全点検を行う。 ①-2:点検表で不具合が報告された場所について, 対応や修繕方法を課会や学部会などで検討し, 改善を図る。 ②-1:長期休業期間を中心に, Wi-Fi接続を含めた家庭への持ち帰りを実施するとともに, 保護者にTeamsアプリを通して様々な情報提供を行う。 ②-2:大学内ならびに構内のサーバー内の階層・構成の見直しを行うとともに, データ整理の指針を教職員に周知しながら月末に整理を行う。			
実施計画 (手だて・スケジュール等)	① 4月:安全管理計画や消防計画の作成, 及び学校施設の火元責任者の決定。 4月~3月:安全点検の実施, 対応及び修繕。 ②-1 4月~7月:家庭への持ち帰り準備, 各家庭のWi-Fi環境確認 8月:家庭への持ち帰り, 学習課題の提供 ICT活用に関する全体研修の実施 9月~3月:タブレット端末の活用 GIGAスクール構想推進委員会での, タブレット端末の活用に関する協議による, 効果的活用に向けて校内体制の整備。 ②-2 6月:サーバーの階層の見直し, 新サーバー使用開始, データ整理			
実施状況	①毎月の安全管理点検を複数教員で行った。点検表の項目に基づき, 多くの教員の視点から実施することができた。安全管理点検終了後, 点検表の項目で修繕箇所が見つかった場合, 課員でもう一度確認し状況を把握した上で, 学部会などで話し合い, 管理職に相談し対応や改善を図れた。 ②-1タブレットの家庭への持ち帰り準備, 各家庭のWi-Fi環境確認し, 夏休みと冬休みに希望者が持ち帰ることができた。ICT活用に関する全体研修により, 授業でICT機器やタブレットを使用する機会が増えた。 ②-2サーバーの階層の見直しや, 新サーバー使用開始により, データの整理ができたことで利便性が向上した。			
評価指標の達成度及び成果	①点検月ごとに点検箇所と担当者をランダムに変更しながら, 多くの教員の視点で点検を実施することができ, 安心安全な教育環境の整備をすることができた。 ②-1夏休みと冬休みに希望者がタブレットを家庭へ持ち帰ることができた。授業でICT機器やタブレットを使用する機会が増えた。 ②-2サーバー階層の見直し, 新サーバー使用開始で, データの整理ができ, 集約された。			
総合評価 (記号を○で囲む)	(A)	B	C	D
	80%以上	70~79%	50~69%	49%以下
評価根拠	①安全管理計画, 消防計画, 安全管理点検表(実施記録) ②GIGAスクール構想推進委員会記録, タブレットの家庭への持ち帰りガイドライン			
次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全管理計画と消防計画の改善, 安全管理点検の継続実施</li> <li>・学校・家庭での ICT機器活用のための環境整備</li> <li>・保護者との連絡ツールの充実や文書のデジタル化</li> </ul>			